

令和5年度

南井上小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎基本を充実させるための「書く・聞く・話す」活動の実践
- 主体的に課題を解決するための思考力・判断力・表現力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
秋山 万里子	(校長)谷口睦子 (教頭)中村七帆(教務主任)有月義明 (研修)貴志久美子(学年主任)遠藤みゆき 小賀野佳代子 貴志久美子 藤本玲子 板東敬子 藤田ひろみ (特支)寺内小織(TT)井藤清美 齋藤豊子

校長

谷口 睦子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、さまざまな機会を捉えて、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算など基本的な学習に意欲的に取り組める児童が多い。 ●基本的な学習内容が十分定着しておらず学力の二極化が見られる。語彙数が少なく、問題を読み取る力や学習したことを言葉や文章で表現したり生活に生かしたりできる力の育成が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・語彙を増やし、正確に文章を読むことができる。また、より適切な言葉を用いて話したり文章を読んだり書いたりすることができる。	・視写の活動を積極的に取り入れ、文節や言葉、意味のまとまり等をとらえられるようにする。 ・朝活で、小テストや音読・群読、読書タイムを実施し、基礎的内容の定着を図る。 ・効果的なノートの取り方、短文の作り方、工夫した日記の書き方等を教師が共有し使える言葉や漢字を増やしていく。 ・国語辞典を活用し、言葉の意味や使い方を調べたり、文の中で活用したりできるようにする。	・低学年では国語辞典の学習がまだなので、似た意味・反対の意味の言葉を見つけれられるようにする。 ・文章中の大事な言葉を見つけれられるようにする。	・基礎的・基本的な知識・技能はしっかりと身につけている児童が多い。 ・作文活動をどの学年も積極的に取り入れたことで、気持ちや様子のよくなる文章を書く力をつけることができている。	・朝活の活用の仕方を進め、さらに基礎的内容の定着を図っていきたい。 ・低学年から、言葉の意味や使い方を丁寧に学ぶとともに、その言葉が文章の中で大事な部分として扱われていることに気付くことができるよう指導を行っていく。 ・「書く」ことが苦手な児童の中には、文字をスムーズに書けない児童、言葉をあまり知らない児童もみられるため、視写の教材を使う等して、書き写す練習もする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分なりの考えをもち、意欲的に発表したり文章に書いたりできる児童が増えてきている。 ●自分の意見や考えを相手と比べながら考え、よりよい考えにまとめていくことが苦手である。	・相手の話を最後まで聞くことができる。 ・自分の考えを理由や根拠を明確にして伝えたり、相手の考えと比較しながら聞いたり、よりよい考えをまとめたりする。	・書く機会を増やしたり、自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら伝えたりする学習活動を意図的に設定する。 ・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。(タブレット等のICTの活用) ・どの教科においてもふり返りを大切に、自分がその時間に考えたことについて表現する習慣をつける。	・図を用いた学習では理由を説明できるようにする。 ・ペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、話す・聞く力をつける。	・一人一人を見ていると、しっかりと自分の意見や考えを持ち、相手に伝わる声で話すこと、相手の話を聞くことができている児童が多い。しかし、まだ課題が残る児童もいる。	・話す・聞く学習を、ペア・グループで積極的に行くと同時に、「話し言葉」と「書く言葉」の違いを正確に理解し、使うことができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習し、与えられた課題に、真面目に一生懸命取り組める児童が多い。 ●難しい課題になると、諦めて最後まで取り組むことができなかつたり受け身になつたりする児童がいる。	・決められた課題だけでなく、初めて出会った課題に対しても、身に付けた力を生かして、自分なりに解決していくことができる。	・家庭学習の手引き等を活用し、家庭と連携しながら家庭学習・読書活動の習慣化を図る。 ・タブレット等のICTの活用を図り、自力解決時の考え方を分かりやすく伝え合えるようにする。 ・授業中に意見を交流する場面を多く取り入れる。	・タブレットの活用が進んでいるので、ICT支援員と活用方法の計画を立て、「具体的方策」をより効果的に進められるようにする。	・家庭学習・読書活動は習慣となり十分できているが、配慮が必要な児童への声かけは引き続き取り組んでいきたい。 ・ICTの活用が多くなり、個人での活用から、学級、集会へと幅広い場での課題解決ができるようになってきた。	・メタモジを効果的に活用できることが、個々の学習意欲を高めることと表現の場が増えることに繋がり、様々な課題解決に進んで取り組む児童を育てることができると考えている。また、ポートフォリオ的に活用することで一人ひとりの自信へと繋げられるようにする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

